

## 2021 年度日本海洋学会第 2 回幹事会議事録

日時:2021 年 7 月 19 日(月)13:30~16:30

場所:Zoom を利用したオンライン開催

出席者:神田会長、伊藤副会長、岩本、梅澤、江淵、岡、乙坂、帰山、川合、高橋、土井、中野、西部、野口、三角、吉田、事務局(毎日学術フォーラム:平坂)

### 議題

#### 1. 議事録(案)承認(三角幹事)

2021 年度第 1 回幹事会の議事録(案)が確認され、一部修正の上、承認された。

2021 年度春季評議員会の議事録(案)が確認され、承認された。

#### 2. 審議事項

##### (1) 入退会について(梅澤幹事)

2021 年 4 月から 5 月の入会者(9 名)と退会者(3 名)が承認された。2021 年 5 月末時点の会員数は、1406 名。

##### (2) シンポジウムの後援・協賛等について(梅澤幹事)

後援・協賛等について 5 件の依頼があり、承認された。

##### (3) 募集・推薦等の依頼(梅澤幹事)

公募・推薦 15 件、シンポジウム・講演等について 1 件、転載許諾 3 件、その他 1 件の依頼があり、学会ホームページにて公開、メーリングリストにて配信等の対応がなされたことが報告された。

##### (4) 名誉会員の推薦について(乙坂幹事)

名誉会員の推薦について提案され、承認された。

##### (5) 2022 年度秋季大会のウェブサイトの改訂について(土井幹事)

2022 年度秋季大会のウェブサイトの改訂について提案され、承認された。

##### (6) 2021 年度若手集会助成について(伊藤副会長)

若手集会助成について 2 件提案され、承認された。

##### (7) 寄付金の受け入れについて(神田会長)

寄付金の受け入れについて提案され、今後の進め方について協議した。

##### (8) 法人化の具体的方向性について(神田会長)

法人化に向けた方向性について協議し、秋季評議員会に向けて準備を進めることとなった。

### 3. 報告事項

#### (1) 会長(神田会長)

海洋学会に関する情報をオンラインでやりとりする際のルールについて問合せがあったことが報告され、今後検討を進めることとなった。

#### (2) 集会(三角幹事)

秋季大会の授賞式の準備状況について報告された。

#### (3) 研究発表(土井幹事)

秋季大会およびそれ以降の大会の準備状況について報告された。

#### (4) 選挙(中野幹事)

選挙のオンライン化に向けた検討状況について報告された。

#### (5) 編集

##### ① JO(江淵編集委員長)

JO(Vo. 75(1)から Vol. 77(4))の発行状況、投稿・受理状況について報告された。

特集セクションの発行状況、発行見通しについて報告された。

論文の掲載料の請求時期の早期化に向けての対応状況が報告された。

##### ② 海の研究(吉田編集委員長)

海の研究第30巻3号が6月15日に発行されたことが報告された。第30巻4号は7月25日に発行予定であることが報告された。

特集「海洋学の10年展望2021」の編集状況について報告された。

##### ③ ニュースレター(岩本編集委員長)

JOS ニュースレター(第11巻2号)の発行準備状況について報告された。

#### (6) 広報(埴山幹事、川合幹事)

JpGUにおけるブースの出展とクイズラリーの実施について報告された。

海の出前事業について7月に2件、オンラインで実施されたことが報告された。また、今後の予定について報告された。

内閣府総合海洋政策推進事務局が発行している海洋レポートの令和3年版が7月22日に発行予定であり、学会MLで周知されたことが報告された。

海洋学会のエコバッグを作成することを計画しており、イベントの際に配布することを検討していることが報告された。

(7) 海洋環境委員会(梅澤幹事)

青い海助成事業の緊急提案型の募集について、学会 ML で周知したことが報告された。

(8) 教育問題研究会(川合幹事)

サイエンスアゴラ 2021 が 11 月 3～7 日に開催予定で、海洋学会として申込みを行ったことが報告された。

海洋教育学会の設立にむけた第 1 回の準備会合が 6 月 19 日に開かれたことが報告された。  
7 月 31 日の第 2 回準備会合に向けて、設立の趣意書をとりまとめていく予定であることが報告された。

(9) 研究に関する将来構想 WG(高橋幹事、川合幹事)

研究に関する将来構想 WG にてとりまとめた総説論文 7 本が、海の研究に投稿されたことが報告された。またパブリックコメントとそれに対する回答、投稿時点の原稿が学会ホームページで公開されたことが報告された。

上記の総説論文をとりまとめる中ででてきた難解な用語について用語集を作成し、学会のホームページに掲載する予定であることが報告された。

(10) 男女共同参画(野口幹事、伊藤副会長)

女子中高生夏の学校が 8 月 8～9 日にオンラインで開催される予定であることが報告され、大林会員、川合幹事、野口幹事、村山様(日本 NUS)、安中会員で準備にあたっていることが報告された。当日はポスターとキャリア相談に参加予定で、野口幹事と村山様が対応にあたる予定であることが報告された。

(11) 水産・海洋科学研究連絡協議会(伊藤副会長)

2021 年度の連絡協議会の体制について報告され、第 1 回会合の内容について報告された。

「深海アルゴフロートの全球展開による気候・生態系変動予測の高精度化」について、マスタープラン 2023 に向け継続して共同提案していくことについて同意が得られたことが報告された。

連絡協議会で主催する日本学術会議のシンポジウムが 2021 年 11 月 12 日にハイブリッドもしくはオンライン形式で開催予定であることが報告された。

(12) 沿岸環境関連学会連絡協議会(梅澤幹事)

2021 年度の海洋学会の窓口担当は福田会員、速水会員、小松会員であることが報告された。  
海洋学会の秋季大会の 80 周年記念シンポジウムで今井代表が登壇予定であることが報告された。

(13) 若手支援(伊藤副会長)

採択された若手研究集会について手続きを進めていくことが報告された。海外渡航援助についてはしばらく保留とすることが報告された。

若手の学会員から、論文執筆や科研費の申請書の書き方についての勉強会の開催を希望する意見がでており、開催に向けて検討を進めていることが報告された。

(14) 80周年記念 WG(乙坂幹事)

記念シンポジウム、記念誌の発行、記念品製作を主な実施内容とし、準備が進められていることが報告された。

(15) China-Japan High-level Experts Symposium について(伊藤副会長)

7月2日にJSTと中国科学技術部の主催で China-Japan High-level Experts Symposium on Marine Environment が日本側はオンライン、中国側は対面の形式で開催されたことが報告された。

以上